森友学園の疑惑は良くある話？
茨城県から社会福祉法人の投書

当紙では、茨城県水戸市の市議会を牛耳る松本勝久爺と農業委員会の笹沼恭一会長を巡る悪行の数々を追及してきた。

そんな縁もあってか、時おり茨城県に纏わる投書が送られてくるのだが、今回は、社会福祉法人の設立を巡り、議員の介入や行政職員が、それぞれの思惑のもと、怪しい動きをしていたことを思わせる投書が届いた。

世間は、ちょうど森友学園の国有地払下げ問題で大騒ぎしているので、なにも学校法人に限らず、補助金申請などが絡む事案に於いては、我々が気付いていないだけで、似たり寄ったりの疑惑が意外と身近に存在しているのではないか？という一例として、投書を紹介する事にした。

この投書は、長文で多くの資料が添えてあるため、紙面の都合上全てを掲載することが出来ない（全文は敬天白ブログで掲載中）。そこで、投書が三つのタイトルに分かれているので、それぞれ分けて内容を要約し触れていくことにする。

其の一

先ず、「一、飯塚県議会議長の不正」について。

茨城県議会議員の飯塚秋男氏が平成二十年頃、鈴木章という大工をそそのかし、社会福祉法人「桜川福祉会」を立ち上げ、障害者福祉施設を建設した際、飯塚県議が県職員の「大森」と「酒寄」に圧力をかけ、国の補助金一億円を出させた。という話である。

ところが、

①施設の建設に携わった業者に代金を支払わず、飯塚県議が補助金一億円を私的流用してしまった。

②流用できたのは飯塚県議の嫁と知人が理事に収まっていたから。

③そのことで、業者から未払い代金について相談された県職員の酒寄氏が、知人である社会福祉法人「やまびこの里福祉会」の斉藤亨常務に相談した。

④その結果、知り合いの「笹沼政国」と「石川利雄」という人物を桜川福祉会の理事として送り込み、桜川福祉会を「やまびこの里福祉会」の親会社である不動産会社「野澤ワールド」に一億円で売却して、業者の未払い代金を支払うという計画を立てた。

⑤ところが、その計画に気付いた鈴木章が、自分ならもっと高く売れると考えて、飯塚県議や臼井（平八郎？）議員に相談し、④の計画を阻むために県庁へ文句を言いに行った。

⑥そして斉藤亨たち（笹沼、石川）を理事から引きずりおろした。

⑦飯塚県議は、当時の福祉部長（現副知事）山口ちえに口利きを行い、笹沼の前の理事（鈴木章や飯塚の嫁）には、補助金の使途不明金について請求しないとする確約書をつくらせた。

⑧そのため、今も業者への未払い金はそのままであり、⑦によって揉み消された。

というのが、投書主の言い分だ。そして⑦を裏付ける資料として、飯塚県議が山口副支部長に鈴木前理事長の負債を免責する文書を出すようお願いしていることが分かる資料が添付されていた。

しかし、いくら県の福祉部長が前の理事たちに請求しないという確約をしたところで、特定の人物の責任は免れたとしても、業者の債権が消えるわけではないのだから、完全に揉み消すことは出来ないだろう。

だから、④の計画で負債を引き継ぐことを承知で、新たに笹沼たちが理事に入ったわけだ。しかし、野澤ワールドへの売却計画は失敗した。

因みに、飯塚県議が議長を務めていたのは、調べたら平成二十五年十二月～平成二十七年一月であるから、投書の主はそのころ追及していた事案を、当紙に送って来たのかな？

其の二

続いて、

「二、酒寄元之、斉藤亨、笹沼政国、石川利雄たちの不正」

山口ちえ福祉部長の確約書によって、請求を免れた鈴木章や飯塚の嫁の後に桜川福祉会の理事になっていた笹沼政国が未払い金を立て替えており、損をする結果と成った。という話だ。

そこで、

①県職員の酒寄は、補助金一億円を斉藤や笹沼たちに工面することに成った。

②そこで架空の会社をつくり、偽の領収書で補助金を騙し取っていたが、バレて笹沼が逮捕された。

③笹沼逮捕は新聞沙汰になった（紙面下資料）。

④笹沼のところで事務員をしていた篠原の話しでは、新聞の報道にあるのは本の一部である。

⑤笹沼は、補助金の一部を公明党の高崎進県議と田村けいこ県議に寄付している。

⑥不正受給を県庁に通報した連中に「余計なことをしゃべるな」と高崎県議と笹沼が言っている記録もある。

という話らしい。こちらは斉藤一派の不穏な動きのようだ。斉藤一派が最初に本件と関わるきっかけと成ったのは、県職員の酒寄からの相談であった。

だから酒寄は新たに理事に就く笹沼たちが負債を負った事について責任を感じ、①に至ったというわけかな？

当時の笹沼逮捕報道によると、障害者自立支援事業の補助金制度を悪用し、水増し請求で約二千万円を騙し取ったとされている。役所は書類を提出させるだけの審査で補助金を出し、不正を見抜けなかったとコメントしている。だが、投書の主は表沙汰になっている金額は本の一部で、職員の関与を指摘しているわけだ。

しかし、当局が捜査済みであるのだから、更なる展開を望むなら、もっと具体的な情報を送ってほしい。それこそ、⑥にあるように不正を通報した連中に、県議が「口止めをしている記録もある」というのなら、その記録を当社に送ってください。

其の三

そして最後、

「三、県職員障害福祉課長・高塚和郎と課長補佐・古市重成による揉み消し工作」

投書の主は、最も重大な問題と位置付けしているのが、この三の事項である。

笹沼の事件で、新聞報道では補助金約三千八百万円の内、水増し請求は二千一一四万円である。

①しかし、実際には一億円以上の補助金が出ており、表沙汰になっているのは一部に過ぎない。

②それを障害福祉課の課長と課長補佐が揉み消そうとしている。

③それは山口副知事、或いは橋本知事の指示ではないか？

④県は、笹沼の弁護士と示談しようとしている。

笹沼の弁護士と古市課長補佐が五百万円で示談しようと手を打っている。

⑤これまでＮＨＫ、朝日新聞、茨城新聞に告発してきましたが、とり挙げてもらえなかった。

と言う話だ。

取材力、資金力のある大手報道陣が取り挙げてくれないので、当紙に情報提供したようだけど、本件を本格的に調査するには、やはり現地に行って取材を行い、証拠を積み重ねなければ成りませんな。

結局、金が欲しい飯塚一派と乗っ取って売却する予定だった斉藤一派の社会福祉法人を食い物にした争奪戦だったのかな？

資料の中には、飯塚県議が深く係わっていたこと、鈴木理事長に多額の負債があり、理事長になれば一億円の補助金を得られ、半分の五千万円を退職金で頂き借金の返済に充てるつもりであったこと、施設経営において不透明な負債と資金の流出があり、背任・不正流用の責任を問う事態に陥っていることを、県が認識していたこと。

その上で、いかに穏便にことを納めるか、関係者が相談していたことが窺えるものもあった。

結局、代金を踏み倒されて泣きを見ている業者や、不利益を被った理事だか誰かが告発すれば事件になるんじゃないのかね？ことの発端は、社会福祉法人における補助金の横領・背任・使途不明金だろうに。

また、現在どうなっているのか近況について、再度、投書をお待ちしております。

「性善説」で現地調査なし
補助金不正受給
県、契約書偽造見抜けず

平成 28. 5.11 笹沼逮捕の報道

新敬聞元

敬天新聞　第２２７号
平成２９年４月１日発行（月刊）
発行所　敬天新聞社
編集長　吉永健一

〒 335-0013
埼玉県戸田市喜沢１丁目 28 番地の 43
ＴＥＬ　０４８－２２９－０００７
ＦＡＸ　０４８－２４２－５８５８

定価　１部 980 円
年間購読料・個人１万円／法人３万円
振込口座・埼玉りそな銀行（武蔵浦和支店）
（普通）３６５９３６７　敬天新聞社
ＦＡＸ情報誌「敬天千里眼情報」随時発行

敬天・国士啓蒙とは

人間は、如何に力を持とうとも、自然の摂理や配剤にはかなわない。常に学問をして天をおそれ敬って、人を愛する心境に到達する事が必要なのです。

また、国家にとって有能な人材を「国士」と言います。国士は敬天の思想から天敵を討つことを目標とし、あくまでも中庸を守り、国益と国民の権益を侵すものを徹底的に排除することを使命とします。

国士の中でも比類することの出来ない人物を国士無双と言い、そのような人物を育成することを国士啓蒙と言います。

敬天新聞社
社主　白倉康夫

本紙ご購読料振込のお願い

本紙は皆様の購読料を原資に国士啓蒙運動を展開しております。「国賊は討て」のスローガンのもと、新聞紙上・ウェブと街宣抗議活動で悪党を叩き続けております。今後も末永く読者の皆さまに愛され、糾弾対象からは恐れられる新聞社でありたいと思います。

本紙ご購読料の振込に、ご協力をお願い申し上げます。

※年間購読料　個人＝壱萬円　法人＝参萬円

敬天新聞社

政・官・財界の不正疑惑、悪徳企業にまつわる情報提供→ disclosure@keiten.net までご連絡下さい。

website　http://www.keiten.net